

一般質問 野角 満昭(日本共産党議員会)

民間建築物の耐震化支援策について

質問 本市の耐震改修促進計画では、民間建築物は、基本的に所有者が自らの責任で耐震化を図ることとし、市としては、相談やアドバイス、自治会や自主防災組織との連携を行うとしているが、その実績について伺う。

また一方で、民間の木造住宅の耐震改修については、いま全国的に、補助制度を設け、促進策をとっている自治体が増えている。

本市においても、民主商工会等から市長への要望が出されていることから、現在の耐震改修促進計画を充実させ、民間住宅への耐震化支援策を設けるべきであると考えますが、市の見解は。

答弁…都市建設部長

民間建築物の耐震化支援策については、市の広報やホームページ等で、地震対策に関する情報提供を行うとともに、総務課では、各地域で行われています防災講習において、地震に関する勉強会を平成19年5月以降、現在まで10回実施しています。

また、建設課においては、木造住宅の簡易耐震診断やパンフレットの無料配布を行い、建物の耐震化の必要性について、普及啓発に努めているところです。

さらに耐震化を促進するため、先進地の事例も研究し、経費の一部支援についても前向きに検討していきたいと考えており、現在のところ、民間住宅の耐震化の動機付けとなるような支援策について検討中です。

池田 睦雄(新政会)

県道富士見町線拡幅工事の北進について

質問 県道富士見町線については、北側側道から県道高松善通寺線までの560mが、幅員10mのまま残されている。

拡幅工事の北進に向けての早急な事業着手が、中心市街地のまちづくりにとって極めて重要であると思うが、市長の考えは。

答弁…市長

これまで県において事業進捗を図ってきました国道11号からJR予讃線までの区間1230mについては、平成9年度に事業着手し、本年8月に全面供用開始となりました。

早速、県においては、JR予讃線から県道高松善通寺線までの事業開始に向けた、具体的な調査を始めているようです。一方、政権交代による予算確保の見通しについて、今度どういう方向に向かうのか、現在のところ不透明な状況にあり、国の動向を注視しているところと伺っています。

いずれにしても、県道富士見町線拡幅工事の北進については、安全・安心のまちづくりを進める上で、本市にとって必要な事業であることは十分認識しており、地元熱意も十分伝わってきております。

10月13日には、私と副市長・部長がそろって県の土木部長を尋ね、拡幅工事の北進に向けた早期の事業着手について、強く要望したところです。

今後とも引き続き、地元選出の県議会議員とも密接に連携を取りながら、鋭意対応していきたいと考えています。

若杉 輝久(公明党議員会)

事業仕分けについて

質問 市民の多くが、国の事業仕分けを見て、それぞれの思いを抱き、坂出市の事業仕分けはどうなるのかとの期待を寄せている。

国の事業仕分けを見て、市長はどのような感想を持ったのか。また、その上で、坂出市の事業仕分けの手法、さらには実施時期について、市長はどのように考えているのか。

答弁…市長

国の事業仕分けを見ての感想については、連日のマスコミ報道により、行財政改革に国民の関心をひきつけた点は評価しています。

一方、衆人環視のもとで、仕分け人が国の担当者や質問攻めにし、短時間で結論を出す様子がニュース映像で繰り返され、事業仕分けとは廃止・削減ありきというイメージが、国民に定着してしまつたと感じています。また、説明者が即答できなかったことを全部切り捨てて結論を出すことなど、疑問を感じる点もあります。

坂出市の事業仕分けの手法については、行財政改革の観点だけでなく、本市の独自性や特色を出す観点から、財源や効果を検討する中、必要に応じて施策の充実や強化を図ることも選択肢に含めるなど、本市独自の手法で実施するべく、準備を進めているところです。

実施時期については、今年度中には各担当課での現状整理と自己評価作業を行い、来年度からの個別の事業ごとの「事業再検討」に向け、鋭意取り組んでいきたいと考えています。